

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：都市・地域整備局街路交通施設課

担当課長名：松井 直人

事業名 <small>とうぶのだせん しんけいせいせん まごめざわ</small> 東武野田線・新京成線連続立体交差事業（馬込沢駅～むつみ かがやだいぶつ 六実駅及び鎌ヶ谷大仏駅～くぬぎやま駅間）	事業区分 街路	事業主体 千葉県
起終点 自：鎌ヶ谷市南初富6丁目 至：鎌ヶ谷市北中沢1丁目	延長 約3.2km	
事業概要 本事業は、鎌ヶ谷市の中心市街地を走行している新京成線において、鎌ヶ谷大仏駅～くぬぎ山駅間を高架化し、既存の踏切12箇所を除却することにより、交通渋滞や踏切事故の解消を図ると共に、鉄道により分断された市街地の一体化を図るものである。		
H10年度事業化	H10年度都市計画決定	H14年度用地着手
H14年度工事着手		
全体事業費	342億円	事業進捗率
踏切交通遮断量	約68,500台時/日	供用済延長
0km		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 2.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 224/347億円 (事業費: 191/314億円) (維持管理費: 33/33億円)
総便益	(残事業)/(事業全体) 498/498億円 (走行時間短縮便益: 478/478億円) (走行経費減少便益: 5.9/5.9億円) (交通事故減少便益: 14/14億円)	基準年 平成20年
感度分析の結果 交通量、事業費等の変動を想定しても、費用便益分析の結果に問題なし。		
事業の効果等 踏切除却による渋滞解消、踏切事故が解消され、更に鉄道により分断された市街地の一体化を図ることが出来る。		
関係する地方公共団体等の意見 特に無し。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・事業区間の一部は、新鎌ヶ谷土地区画整理事業の区域内にあり、換地処分が始まっている。 ・隣接する東武野田線は、平成17年度に完了している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 現在、(平成19年度末)事業費は約28%、用地買収進捗率は約64%となっており、残事業としては、高架橋工事、駅舎工事等があるが、用地買収が完了すると高架橋等工事の進捗が望める。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 区画整理区域外における用地補償交渉が難航しているが、認可期間内に交渉完了を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 特に無し。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		
<p>The map illustrates the project area between Maikozawa Station (馬込沢駅) and Kunugi Station (くぬぎ山駅) on the Keiō Line. It shows the proposed elevated railway route (新京成線) and the existing ground-level railway (東武野田線). Key locations marked include Maikozawa Station, Maikozawa Crossing (馬込沢踏切), and Kunugi Station. The map also indicates the locations of existing crossing points (踏切) and other points of interest (その他の点). A scale bar indicates a length of 3.2 km.</p>		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。